

「肝心闇話」

校訓：自主 責任 奉仕 協力

(文責：校長)

よく学び、共に生きる生徒 ①正しく考える ②愛する ③尊ぶ

確かな学力 思いやりの心・たくましい体 豊かな人間性 主体的な生活設計 郷土を愛し、郷土に活ける力

□□オアシス

「おはようございます。」「ありがとうございます。」「しあわせだなあ。」「すみません。」

学校評価～評価は素直・謙虚に受け入れよう～

現在、日本の大学では、FD（ファカルティ・ディベロップメント）が普及し、受講学生に対して授業評価アンケートをとるのは当然のこととなっています。小中学校では、まだまだ授業の評価を取り入れていませんが、私自身は早くから授業に取り入れていました。

自分の授業評価・改善のために、生徒たちからアンケートをとるというのは、兵庫教育大学大学院の小林篤先生から教わった手法でした。小林先生は、ご自分の大学の体育授業にも、学生からアンケートを取っておられました。その手法は、楽しい体育の「高田・小林四原則」として、全国に広く流布されています。

「高田・小林四原則」というのは、体育授業後に、

- ①精一杯、全力を尽くして運動ができたか【活動欲求】、
- ②今までできなかつたことができるようになったか【技術向上】、
- ③『あつ、わかつた』とか『あつ、そつか』と思うことがあったか【発見・工夫】、
- ④友だちと力をあわせて、仲良く学習することができたか【協力・連帶】

の4観点について、それぞれ5段階で評価をしてもらい、その記録を分析するものです。

多くの子どもたちは、体育の授業後、「楽しかった」と答えますが、それが単に、「汗をかいて楽しかったから」とか、「友だちと仲良くできたから」というだけではレベルの低い授業だといえます。やはり、「わかる」と「できる」ことが統一された楽しさを得る授業でなければなりません。

私は教務主任を長くやっていたので、授業の評価を学校全体にも取り入れ、積極的に取り組んできました。垂水中学校の時には、全学年、全教科の授業アンケートを毎学期末に実施し、9教科別の評価を比較検討していました。私は当時、保健体育と英語を教えていましたが、英語はともかく、生徒たちの保健体育の授業評価は非常に高く、生徒たちの「一番好きな教科」も、「楽しい教科」も、「わかりやすい教科」も群を抜いて、すべて第1位を独占していたので、私は少しばかり天狗になっていました。



男女共習ハンドボール授業の全市発表会

ところが、○○中学校に転勤になって、同じように授業評価をさせてみたところ、なんと、私の保健体育の授業評価は下から2番目でした。私の保健体育の実技授業では、多くのプリントを資料として配布し、ノートに記述や記録をさせたり、レポートを課したりするという、いわば科学的な授業だったのですが、○○中学校の生徒たちには合わなかつたのでしょう。「○○中学校の生徒たちはレベルが低い！」「前任の体育教師は一体何を教えていたのだ？」と、自分の授業のことは棚にあげ、腹立たしさを感じていました。しかし、よくよく考えてみると、悪いのは生徒でも前任者でもなく。自分の授業が生徒の実態と合っていなかつたということなのです。謙虚に反省し、受け入れるまで、まる1年を要しました。

受験直前・直後の心構え

受験に臨む心構えは、これまで部活動の試合や学校行事に臨んできた経験が生きてきます。この場に及んで顕著な学力アップは期待できませんから、いかにいい心構えをするかでしょう。

○受験前日・・・心穏やかに過ごす。

「もう少しやっておけばよかった」「まだやり足らない」という人もいるかもしれません、もう時間がありません。今から出来ることは、今日一日、何事にも穏やかに過ごすことを実行することです。決して怒らず、人には優しく接することで、心をゆったりさせ、焦る気持ちを落ち着かせてくれます。これが「心の準備」です。怒られても怒らず、用事を頼まれても断らず、穏やかにゆっくり過ごすのが一番です。「やるだけのことはやった」「やることはすべてやった」と準備万端の気持ちになることが大切です。

○受験当日・・・全力疾走。

自分の持っている実力を全開にし、頑張らないといけません。難しい問題も出題されるかもしれません、難しい問題はみんなにとっても難しいのです。難しい問題を解答するのに時間をかけるより、易しい問題、自信のある問題をよく見直して、確実に正解を出し、小さなミスのないようにすることが大切です。字を丁寧に書くこと、そして、一つの試験が終わったら、振り返らず、次の試験のために備えることです。

○合格発表の日・・・感謝・決意

合格した人は、「おめでとう！」しかし、自分一人で合格したのではないということを教えてあげてください。「やった！」だけではなく、「ありがとうございました。」の感謝の言葉で合格の報告をすることです。

残念ながら不合格だった人は、いつまでも涙なんか見せてはおれません。僕（私）を合格させないような学校は縁がなかったものとして、次の作戦を立てて、次への準備に移らないといけません。「お願いします。」と、次への決意を言葉で表現することです。

「雨が降る」を当たり前と考えれば、曇りのときはうれしい。

晴れならばもっと嬉しいになります。 (小林正觀)

冬の日本海沿岸は、殆ど晴れません。新潟で冬に長期滞在した時、毎日、雪が降り、晴れる日が全くといってありませんでした。

ところが、ある日、確かに雪は降っていませんでしたが、どうみても曇り空なのに、新潟の友達は、「今日はいい天気だわ」と言うので、ビックリしたことがあります。瀬戸内の温暖な気候で育ってきた私は、「日本海沿岸には住みたくない！」と思いました。

さて、人生は、いつも晴ればかりじゃありません。雨の日も、嵐の日もあるでしょう。しかし、基準をどこにおくかで、同じ「曇り」の日でも、気分が違うものです。同じ1日を過ごすにしても、感謝の心で過ごすか、恨みつらみで過ごすかで違ってきます。

今週は私学受験です。何があっても、いい週にさせましょう。

いつも、いい「呼吸」、いい「笑顔」、いい「思考＝イメージと言葉」を意識することが大切だと思います、



本校の図書室にある「落ちない」お守り

「受験の心構え」ハンドブック

を図書室に置いています。ホームページからもアップできるように

しました。参考にしてください。